

東ティモールにて

ともしび
共生委員会ニュース

2019 年度　3 号

2019 年 9 月 2 7 日版

グローバルウィークⅡ　開催！！

来週の９月30日（月）～10月７日（月）に〈グローバルウィークⅡ〉が開催されます。

プログラムの説明会や報告会、体験型ワークショップに現地の特産品の試飲など、今回も盛りだくさんの内容で行われます。これから積極的に参加していく１年生、平和共生論文との関連で視野を広げたい２年生、自分たちが作り上げて来た３年生と、すべての学年の人にそれぞれの形で関わってほしいイベントですので、ふるってご参加ください！

○グローバルウィークⅡ：　９月３０日～１０月７日

	礼　拝	セッション	ワークショップ
9月30日（月）	神田英輔先生	声なき者 共同体再生とSNS	FOR会
10月1日（火）	310 H.K.	宣古プログラム	
10月2日（水）	桃井和馬氏*	桃井氏ワークショップ 世界を考える「本物の知恵」	
10月3日（木）	キャロル先生	校内グループ紹介* 「子ども、貧困、教育」 フィリピン、ティモール、バングラディッシュ こども食堂、フリーザチルドレン	世界一大きな授業*
10月4日（金）	203 K.R.	コーヒー試飲会 「農家に苗木を贈ろう」	ケア・インター 「東ティモールの今」
10月7日（月）		フィリピンプログラムから チャイルドへのクリスマスカード 次回プログラムの案内	



９月３０日昼　共同体再生



９月３０日放課後　FOR会



１０月１日昼　　宮古訪問報告



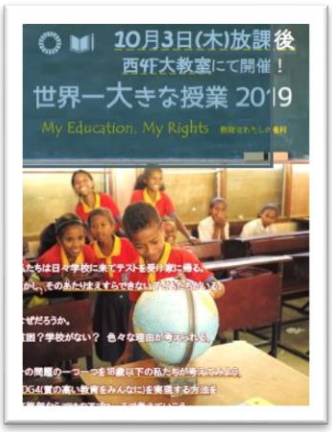
１０月２日昼

写真家・桃井和馬氏



１０月３日昼

高校生が考える世界の教育



１０月３日放課後

世界一大きな授業



１０月４日昼

東ティモールコーヒー試飲会



１０月４日放課後

東ティモールの今



１０月７日放課後

フィリピン訪問プログラム説明会

東ティモール渡航記 ～17 歳の私が 17 歳の国を訪れた話～

HR208 K. M.

私は完全に、東ティモールの虜になった。毎日写真を眺めては思い出に浸っている。私たちが滞在したレテフォホは標高 1500m 近くあり、夜は満点の星空に流れ星を探し、朝はニワトリの声で目覚めて美しい朝焼けを眺めた。人々はとても気さくで、車中にも「ボンディア！」と声を掛けてくる。どこまで家族か分からないくらい皆仲が良く、私たち客をよくもてなしてくれた。子供たちは逃げられるほどシャイだったが、実は騒ぐことが大好きで、打ち解けると一緒に奇声をあげながら遊んだ。楽しかった、、、毎日が本当に楽しかった。

３日目にはコーヒー農家を訪れ、１日かけて摘むから淹れるまでを追いかけた。１杯になるまでには９つもの工程がありとても時間がかかる。コーヒーの実は１つずつ手摘みで、選別の基準はとても厳しかった。５年前は「コーヒーしかないから…」と言っていた農家さんも、今は自分たちのコーヒーに誇りを持ち、丁寧に、熱心に、和気あいあいと作業をしていた。出来たてのコーヒーの美味しさは一生忘れられない。

道はガタガタしているし、病院はない。東ティモールは日本に比べると、足りないものが多く、選択肢が少なすぎる。しかし日本にはないものも沢山あった。手付かずの自然が作り出す美しい景色や、家族・周りの人を大切にする温かい心。時間を忘れて自分らしくいられる環境は、忙しない日本で私が失っていたものだろう。

私たちは、東ティモールに大切なことは「選択肢を増やすこと」だという答えに辿り着いた。「選択」とは「自分の人生を自分で描く」ことだと思う。発展は先進国の押し付けであってはいけない。 進む道は彼ら自身が選ぶべきだ。その中で農家になる選択をした人たちが、より多くの選択肢の中でコーヒー作りができるように、選択肢の１つとして「安心してカットバックができる環境」を作りたいと思った。カットバックとは品質を守るために、コーヒーの木を定期的に切ることである。しかし小さい農家さんは一時的な収入減を恐れ、なかなか踏み切れない。私たちはその問題をカバーできるように苗をプレゼントしようと考えた。高等部生が書いたタグとともに苗を農家さんへ贈り、その成長と農家さんの様子を定期的に報告する一大プロジェクトだ。「支援」というとかしこまったイメージがあるが、お互いが笑顔になれるもっと気軽で楽しいものにしたい。「美味しいコーヒーをありがとう、頑張ってね！」と「買ってくれてありがとう、頑張るね！」の交換ができたら、それは支援と呼べるのではないだろうか。来年の渡航者には苗の成長も見てきてほしい。私もまた必ず、大好きな東ティモールの人たちに会いに行く。



宮古訪問プログラム　東日本大震災の教訓を後世に

HR310　T.M.

私が宮古訪問プログラムに参加したのは昨年度に引き続き２回目でした。昨年度は初めて体験することばかりでただ圧倒されて終わってしまったような気がしていました。そのため、今年はもっと積極的に話を聞き交流したいと思い、参加を決断しました。

実際に参加して新たに２つのことについて考えることができました。１つ目は情報の「風化」です。東日本大震災から８年がたった今、小学生の中にも震災が記憶にない世代が増えてきています。地域ボランティアによる防災講習「学ぶ防災」で小学生に津波のことを説明しても、しっかりと理解して聞いている子は少なく、津波の被害を受けた建物や映像、写真を目の当たりにしてはじめて真剣に話を聞くということもある、という話を聞きました。このことから、言葉だけでなく視覚から伝えていくことはとても重要なことであることが分かりました。しかし、物や映像で伝えることは準備や保存を考えると簡単なことではなく、被災した建物をそのままにしておくのは様々な観点から難しいです。また、写真や映像も、亡くなっている人が写っている場合マスメディアなどで公開することはできませんし、写っていなくても被災者の精神面の配慮が欠かせません。そのため直接被災地に足を運ばないと、なかなか正確な情報を見ることが出来ません。これらのことから、現地に行って実際に体験した人から、直接話を聞いたり物を見たりして感じることは大切なことだと感じました。

２つ目は個人情報についてです。現在個人情報の保護が重視されていますが、そのことにより消防団に住所や家族構成などを教えることが出来ません。また以前より住民同士の交流が減っているため、隣に住んでいる人が何をしているかも分からないこともあります。それらにより、東日本大震災の時、誰がどこにいるか分からず、消防団の人や地域の人が助けに行くことが出来ないまま亡くなってしまった方が多くいたそうです。それらの経験から、現在自主的に個人情報を教えてもいいという方が情報を提供し、いざという時に役立てようとしているそうです。個人情報が声高に叫ばれている今だからこそ、災害時にどこまで提供してどこまで保護するのか、議論しておく必要があるのではないのかと思いました。

宮古訪問プログラムに参加して東京にいるだけでは得ることのできない情報を沢山知ることが出来ました。これから起こるとされている南海トラフ地震や首都直下型地震で多くの被災者を出さないためにも東日本大震災のことやそこから得られたことを後世に伝えていかなくてはならないと思いました。そしてこの問題は皆が考えなくてはいけないことだと思います。皆さんも現地を訪れ、実際に目で見て話を聞き、考えてみてはいかがでしょうか。



